



寺町を代表する名利・安楽寺。国登録有形文化財の朱塗りの二重門は寺のシンボルで、地域の人たちから別名「赤門寺」として親しまれています

# 歴史情緒あふれる美馬市に 三大河川の仲間が集結！

平成24年に兄弟縁組を締結して以来、互いに訪問し、交流を深めてきた日本三大暴れ川の兄弟たち。三度目となるシンポジウムは吉野川中流域の美馬市寺町が会場です。九州北部を襲った豪雨の被害が心配された筑後川の皆さんも参加され、自然との共生をテーマに活発な意見交換が行われました。



お寺でのシンポジウムは前代未聞?! 奥の屏風は「鳴門の渦潮」。千葉住職の「皆さんに涼を届けたい」との粋なはからいです

## 寺

社が立ち並び、ミニ古都の趣あふれる美馬市寺町に、利根川・筑後川・吉野川の関係者が集い、8月19日(土)、「日本三大河川シンポジウム2017」が開催されました。今回は「自然との共生」がテーマです。折しも、7月には福岡県・大分県を中心とする九州北部を豪雨が襲い、筑後川の仲間の安否や被災の状況が心配されていました。たいへんな状況のなか、参加してくれたことにまずは感謝し、利根川流域交流会、吉野川交流推進会議、吉野川の渡し研究会より災害見舞金が贈られました。

## 活

動報告はまず長男・利根川から、PFI佐原<sup>さわら</sup>りバー株式会社<sup>さわら</sup>の敷下<sup>さか</sup>貴弘<sup>きひろ</sup>さん。千葉県香取市佐原は江戸時代から利根川舟運の物流拠点として栄えた町です。平成22年3月、道の駅と川の駅が併設された全国初の施設として水の郷さわらを開業。翌年の東日本大震災の被害で集客に苦労しましたが、親水イベントを企画したり、モーターボートや昔ながらの「さつぱ舟」を使った遊覧船コースも開拓し、今年年間110万人が



吉野川交流推進会議  
会長 福永 義和さん



美馬市水辺の楽校運営協議会  
会長 千葉 昭彦さん

## 美

馬市からは、主催地を代表してNPO法人美馬体験交流の会理事長・北岡武義さんが、吉野川の竹林を利用した活動を紹介。竹林の整備、タケ訪れる一大水辺拠点になっています。「水辺の魅力は自分達で創り出すことができる」と敷下さん。  
続いて筑後川からは、被災地のまっただなか・福岡県朝倉市からお越しになったNPO法人筑後川流域連携倶楽部理事の平田昌之さんより、九州北部豪雨の被災状況の報告がありました(↓関連記事P4)。「仮設住宅ができて、昨日から稼働し始めたばかり。朝倉市のシンボルである国指定史跡の三連水車も被害を受けたが、住民の手で復旧され、一週間前に動き出した。地域の人といっしょにふんばっていきたい」との力強い言葉に、会場から大きな拍手が起りました。

馬市からは、主催地を代表してNPO法人美馬体験交流の会理事長・北岡武義さんが、吉野川の竹林を利用した活動を紹介。竹林の整備、タケ



利根川流域交流会、吉野川交流推進会議、吉野川渡し研究会から筑後川に災害見舞金が贈られ、NPO法人 筑後川流域連携倶楽部の財津副理事長がお礼とともに、台風被害の状況を報告しました。生々しい報告に胸が痛みます



ノコギリなどの農業体験、竹灯籠による八幡神社のライトアップなどを12年にわたって続けてきました。「竹林を子どもたちの声と笑顔で満たそう!と頑張っています。出来る人が、出来るときに、出来ることを今後も頑張っていきます」と北岡さん。

また、徳島剣山世界農業遺産推進協議会を代表して、美馬市美来創生局観光課の逢坂肇さんが「にし阿波の急傾斜地農耕システム」について発表。にし阿波(美馬市、三好市、つるぎ町、東みよし町)の山間部で、400年以上にわたり受け継がれてきた農法と暮らしは、平成29年に日本農業遺産に認定され、現在は「世界農業遺産」申請の準備中だとか。

ラフティング世界選手権での徳島チームの活躍も記憶に新しいところですが、平成30年8月30日〜9月2日には三好市